

●竹蛇籠の製作講習会は 9 月 15 日を初日として、玉水橋東詰め広場で開催いたします。以後毎土日の 9 時 30 分から 12 時過ぎを計画しています。

京都大学の竹門先生の伝統的河川工法を用いた木津川の河床地形管理手法に関する研究に里山の会に声がかかり、協力することになりました。これまで竹蛇籠の製作と設置そして中聖牛の設置にまで発展した経験を活かして、先生と他の研究者のお手伝いに参加して、昨年以来の竹蛇籠の技術啓発と普及を里山の会の目標として参加します。川の竹、川の石など自然素材の活用をしながら実行することになります。竹蛇籠製作の重要なポイントは均一な素材を揃えられるかにかかっています。まったくの素人が不均衡な資材を用いるとそれぞれ強度が同一であっても力の入れかたが違って正確な製品に仕上げるのが難しいいうえに、素材に変化があればさらに困難が至極であります。竹資材を均一な素材にどうして整えるかと苦勞してきました。幅と厚さひび入れなどについて道具を使って整えることです。見たところ均一な竹でも少しずつ全部違っています。即ち単純な道具では対応出来ないのです。そこで竹割り木や幅整齊機に調整機能があって、臨機応変の対応が可能な機械となるとこれを製作することは非常に難しいものです。竹送り装置、竹引き抜き装置、いかに作りあげるかにかかっているのです。昨年は高橋慶平様に竹割り機の製作を依頼しました。これまでの体力勝負の作業の軽減が図られました。今年は最低 45mm の竹幅を整えるための巾調整機の製作成功にかかっています。作業を分解すると送り込み装置、幅整齊機、そして引き抜き装置となります。作業小屋で真剣に取り組んでいただいているのが、太田さんです。今のところ懸命に動力部分の製作に工夫をされています。試作品が待ち遠しいです。

●竹蛇籠製作体験と報告シンポジウムは 10 月 12 日開催に決まりました。竹蛇籠を編み始めて 5 年目になります、随分と試行錯誤を重ねました。昨年もこれまで以上に苦勞と工夫を重ねました。その教訓は均一な資材の確保です。今年は一歩進めて、竹割を行なったら、即完成にまで持ち込むこと、それによって、竹のしなやかさを活かすことになり、折れを防ぎ、曲げ部分の苦勞を軽減できると考えました。ご参加のみなさんにもその日に使用する分量の竹割から体験していただくことになります。全体工程を体験していただけるので、啓発普及に大いに役立つことになると思います。この作業を午前中に体験いただき、午後からシンポジウムを計画しました。指導いただいている京都大学の角哲也先生、竹門先生のご都合もよく、昨年大奮闘してくれた田住君も好都合と日程の調整出来て 10 月 12 日となりました。このあたりで、中間まとめとしてシンポを行う頃合いだと思います。琵琶湖淀川流域圏連携交流会も主催団体として加入を決定されて、力強い催しになってきました。木津川を中心に上流の関係者、下流の皆様が新しい川づくりのために伝統的河川工法を学ぶ良い機会としてご参集ください。少し早いようですが、日程確保お願いします。

●中聖牛組立設置完成予定は 11 月 23・24 日になります。一昨年は台風などで増水がくりかえされ、そのたびに資材の移動や持ち出しを繰り返さなければなりません。また直接指導いただく大井川での仕事を行っている原小組さんの 12 月のご都合は難しいとのことで 11 月末に実施します。予定では 3 基の中聖牛を設置する計画で進めています。事前準備で 27 本の竹蛇籠の製作が必要です。組立と玉石投入には人海戦術が決め手になりますので、大勢のご参加をお願いします。

●京の七夕笹竹の提供で北野商店街の納品は 19 日です。 7 月に入って祇園祭、年中で最も暑い土用が近づいているのに、気温は低く、日照時間も少ない記録が話題になっています。前回にもお知らせしましたが、京都商工会議所からの注文がこれから本番になって納品が続きます。時間があればお手伝いをお願いします。

●夜の生き物調べは、20 日に第一部 16 時～、第二部 22 時～、第三部 2 時～予定しています。今年の気候は生き物にどのように影響が表れるのでしょうか、オオムラサキの調査結果から見ると特殊な年に当たるのではないのでしょうか。昨年以上の参加希望が届いています。里山の会では翌日に魚とりを控えていますので、人員割りが混み入って人の割り振りで、負担が重くならないように手配を考えています。ご参加の皆さんはそれぞれ、ご自分で十分な対応準備をお願いいたします。

●近畿地方整備局功労者表彰が 22 日 9 時 30 分に大阪市天満橋の近畿地方整備局で行われます。出席の案内が届きました。里山の会では、深田理事長に出席をお願いしています。木津川における実績が高く評価いただいたものと思います。これは会員社員各位のご支援とご協力の積み重ねがあつてのことです。全会員の力強い励ましによるものだと思います。有難うございました。これを機にさらに躍進できればと思います。

●定例の植物観察は 12 日に飯岡地域で 8 名の参加で実行 心配しました天候は、まさに梅雨の合間の曇天でしたが、花散策にはもってこいの天気です、8 名の集団でしたので適正で充実した内容となりました。飯岡は木津川堤防のうち最適な草原風景で、大きな植物も少なく、見通しも景観も抜群で、飯岡から宮前橋までは特筆する景色で残しておきたい代表的な場所です。まさにお花畑といってもいいほどのカワラサイコの群生地でした。ところが最近ナデシコはすっかり減少して寂しいばかりの開花状況になっています。12 日の観察会でも昨年と比較すると 80%の株数に減少しているとの印象と報告されました。

●木津川はココが面白い 京都を学ぶセミナーが京都大学セミナーとして竹門康弘先生の講演が行われました。里山の会からは深田理事長、播川前理事長、太田理事、山田、金田社員、山村が出席しました。講演で印象に残ったのは、チドリの糞から食べ物調査、琵琶湖の 400 万年前からの移動、中聖牛や竹蛇籠の設置の意味と目的、川の多様な変化と多様な生き物の生育についてでした。竹門先生は小さい時から昆虫などに興味を持っておられて、チドリの小さな糞を分解すると食事に使っていた生き物の身体の一部がそのまま発見されるのを見て、何を食べているのか、そしてその生き物はどこに住んでいるのかが判るというお話に驚きました。それも顕微鏡で覗いてみて見える体のほんの一部分から判定されるというのですからさらなる驚きでした。